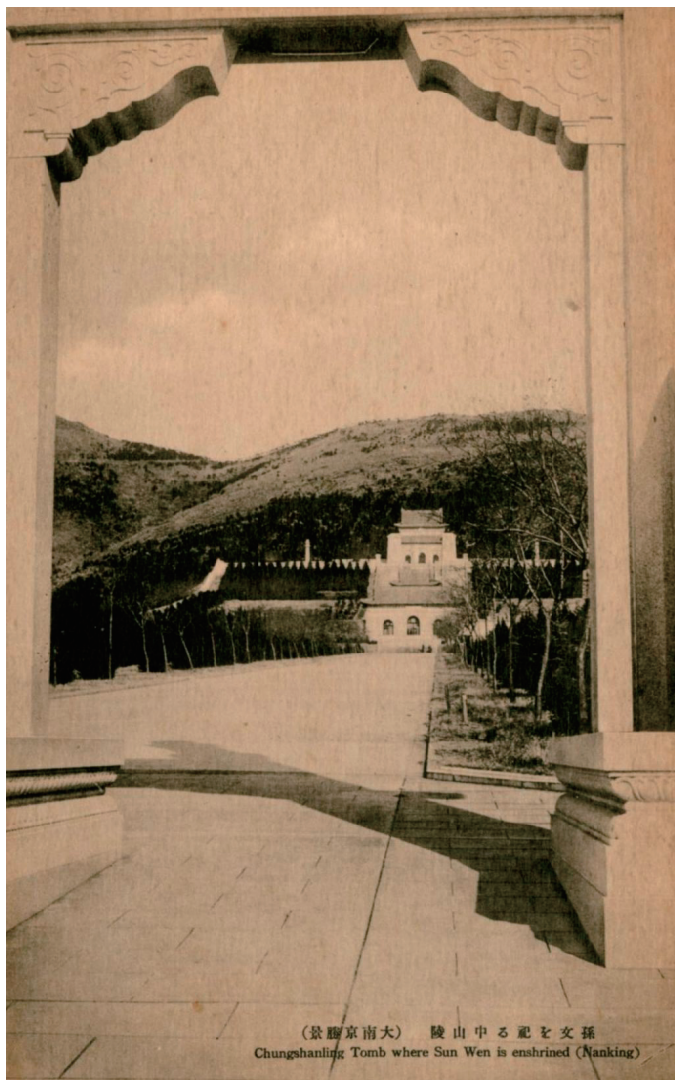


孫文



(景陽京南大) 陵山中る祀を文孫
Chungshanling Tomb where Sun Wen is enshrined (Nanking)

* 田村哲夫文庫1121「絵はがき 孫文を祀る中山陵（大南京勝景）」

解説

写真は中国の革命家孫文が眠る南京の中山陵の絵葉書です。

はじめ医者として働いていた孫文は、しだいに民族意識を強め、1894（明治27）年、革命団体の一つである興中会を結成しました。その後、武装蜂起を試みるも、失敗し、日本へ亡命しました。

日本との関係は深く、革命を支援する日本人の協力のもと、1905（明治38）年に東京で中国同盟会を結成し、三民主義（民族・民権・民生）の思想をかかげ革命運動をリードしました。

1911（明治44）年、辛亥革命がおこると臨時大總統に選ばれ、翌年、中華民国が発足しました。袁世凱との妥協の結果、袁が大統領となりましたが、独裁政治を強めたため、孫文は第二革命、第三革命を起こし袁を失脚させました。

1919（大正8）年に中国国民党を結成し、1924（大正13）年には第一次国共合作を実現し総理に就任しましたが、翌年3月「革命いまだならず」の言葉を残して亡くなりました。



* 写真上は、1924（大正13）年11月28日に、孫文が神戸高等女学校講堂で「大アジア主義」について講演をした時の新聞記事の切抜きです（梶山家文書1644「孫文演説其外新聞切り抜き」）。